(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3904632号
(P3904632)
(45)発行日　平成19年4月11日(2007.4.11)　(24)登録日　平成19年1月19日(2007.1.19)

(51)Int.Cl.　F I
A45D 33/00 (2006.01)　A45D 33/00　645Z

請求項の数 1　(全 8 頁)

(21)出願番号　特願平8-179547
(22)出願日　平成8年7月9日(1996.7.9)
(65)公開番号　特開平10-14652
(43)公開日　平成10年1月20日(1998.1.20)
審査請求日　平成15年1月22日(2003.1.22)

(73)特許権者　000160223
吉田プラ工業株式会社
東京都墨田区立花５丁目２９番１０号
(74)代理人　100071283
弁理士　一色　健輔
(74)代理人　100084906
弁理士　原島　典孝
(74)代理人　100094042
弁理士　鈴木　知
(72)発明者　柚原　幸知
東京都墨田区立花５丁目２９番１０号　吉田工業株式会社内
(72)発明者　藤田　文喜
東京都墨田区立花５丁目２９番１０号　吉田工業株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】化粧料容器

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
蓋体の裏面に鏡板を備えた化粧料容器において、前記蓋体の裏面に、前記鏡板を収納する凹所を形成し、該凹所の前端部に、前記蓋体との間で前記鏡板の前端部を挟み込むひさし部を形成し、前記蓋体の後端部に断面Ｌ字状に垂下させて、容器本体に回動自在に取り付けられて蝶番部を構成する凸部を形成し、該凸部は、前記蓋体から連続的に垂下された外側壁部と、該凸部に位置される縦壁部および前記凹所に配置される押さえ部とから断面Ｌ字状に形成され、該外側壁部の内側に該蓋体より分離可能に設けられて、該蓋体との間に前記鏡板の後端部を挟み込んで係止する係止部材とから構成し、該係止部材と該外側壁部との間に該係止部材を分離するための溝部を形成したことを特徴とする化粧料容器。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、蓋体の裏面に鏡板を備えた化粧料容器に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
一般に良く知られている化粧料容器は、化粧料が収納される容器本体と、この容器本体に開閉自在に枢着された蓋体とからなり、蓋体の裏面には鏡板が取り付けられている。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】

ところで、世の中に送出されるゴミ（廃棄物）については、その総排出量が年々増加する一方、ゴミ処分場の確保は困難となっており、深刻な社会問題になっている。この事情から、特に最近では、再利用可能なもの及び焼却処分可能な可燃物については、可能な限り回収してゴミのリサイクル化または減量化を図るべく、ゴミの分別収集が推進されている。これに伴い、メーカー側には、分別収集しやすい製品の製造が要求されている。

【０００４】

しかしながら、前記従来の化粧料容器にあっては、ガラスからなる鏡板が蓋体に一体的に取り付けられていて簡単に取り外せるようになっていなかったため、使用済み後、鏡板を、合成樹脂からなる化粧料容器本体から分離して分別廃棄することができなかった。

【０００５】

本発明は、前記事情に鑑みてなされたものであって、その目的は、蓋体から鏡板を簡単に取り外すことができる化粧料容器を提供することにある。

【０００６】

【課題を解決するための手段】

前記目的を達成するために、本発明に係る化粧料容器は、蓋体の裏面に鏡板を備えた化粧料容器において、前記蓋体の裏面に、前記鏡板を収納する凹所を形成し、該凹所の前端部に、前記蓋体との間で前記鏡板の前端部を挟み込むひさし部を形成し、前記蓋体の後端部に断面Ｌ字状に垂下させて、容器本体に回動自在に取り付けられて蝶番部を構成する凸部を形成し、該凸部は、前記蓋体から連続的に垂下された外側壁部と、該凸部に位置される縦壁部および前記凹所に配置される押さえ部とから断面Ｌ字状に形成され、該外側壁部の内側に該蓋体より分離可能に設けられて、該蓋体との間に前記鏡板の後端部を挟み込んで係止する係止部材とから構成し、該係止部材と該外側壁部との間に該係止部材を分離するための溝部を形成したことを特徴とする。

【０００７】

以上のような構成の本発明に係る化粧料容器にあっては、前記溝部内に例えばコインなどの剛体を差し込み、この剛体で溝部を、蓋体後端部の蝶番部を構成する凸部の外側壁部および係止部材を引き離す方向に押し広げることによって、係止部材を蓋体から分離して取り外すことができる。これによって、係止部材により係止されていた鏡板は、蓋体から取り外せる状態になる。その後、鏡板の後端部を凹所内から引き起こして、鏡板の前端部をひさし部から引き出すことで、鏡板を凹所内から取り出して蓋体から取り外すことができる。

【０００８】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の好適な実施の形態について、添付図面を参照しつつ説明する。図１乃至８は、本発明に係る化粧料容器の第１の実施形態を示したものである。本実施の形態に係る化粧料容器は基本的には、蓋体４の裏面に鏡板２０を備えた化粧料容器において、蓋体４の裏面に、鏡板２０を収納する凹所２２を形成し、凹所２２の前端部に、蓋体４との間で鏡板２０の前端部を挟み込むひさし部２４を形成し、蓋体４の後端部に断面Ｌ字状に垂下させて、容器本体２に回動自在に取り付けられて蝶番部８を構成する凸部１４を形成し、凸部１４は、蓋体４から連続的に垂下された外側壁部２８と、凸部１４に位置される縦壁部３２および凹所２２に配置される押さえ部３４とから断面Ｌ字状に形成され、外側壁部２８の内側に蓋体４より分離可能に設けられて、蓋体４との間に鏡板２０の後端部を挟み込んで係止する係止部材２６とから構成し、係止部材２６と外側壁部２８との間に係止部材２６を分離するための溝部３０を形成して構成される。

【０００９】

この化粧料容器は、容器本体２と、この容器本体２を開閉する蓋体４とからなっている。容器本体２には、化粧料を収納するための化粧料収納部６が凹設されるとともに、後端部にはその中央を窪ませて蝶番部８を構成する凹部１０が形成され、他方、前端部には係合部を構成する係合突起１２が設けられている。また、蓋体４には、その後端部にその中央から断面Ｌ字状に垂下させて蝶番部８を構成する凸部１４が形成されるとともに、前端部

には容器本体２の係合突起１２と係脱自在に係合されるフック部１６が形成されている。そして、容器本体２の左右方向から装着されるピン１８により、容器本体２の凹部１０には蓋体４の凸部１４が回動自在に取り付けられ、蓋体４は容器本体２を開閉するようになっている。また、蓋体４を閉じた際、蓋体４のフック部１６が容器本体２の係合突起１２に係合されて容器本体２が閉じられるようになっている。これら容器本体２及び蓋体４は合成樹脂から形成されている。

【００１０】

このように構成された化粧料容器の蓋体４の裏面には、フック部１６側と蝶番部８を構成する凸部１４側との間にわたって薄板で正方形状のガラス製の鏡板２０が取り付けられている。この鏡板２０は、蓋体４の裏面に形成された正方形状の底浅な凹所２２内に収納されている。特に、凹所２２の左右方向幅寸法は、鏡板２０の左右方向幅とほぼ同じに設定されている。凹所２２の前端部側側壁には、鏡板２０の前端部を蓋体４との間で挟み込むひさし部２４が左右方向に沿って形成されている。また、鏡板２０の後端部は、後述する係止部材２６によってひさし部２４と同様に蓋体４との間に挟み込まれて係止されている。係止部材２６は、前述した蓋体４の断面Ｌ字状の凸部１４に分離可能に取り付けられている。そして、蓋体４の凸部１４は、蓋体４の表面から連続的に垂下された外側壁部２８と、この外側壁部２８の内側で蓋体４の入り面と連続して断面Ｌ字状に垂下される係止部材２６とから構成されている。外側壁部２８には、係止部材２６との間に区画して下向きに開放され、蓋体４を開ききったときに上側に向けて開放される溝部３０が形成されている。

【００１１】

さらに詳述すると、係止部材２６は、蓋体４の凸部１４に位置される縦壁部３２と、鏡板２０を収容する凹所２２内にその幅方向にそって配置される細長い押さえ部３４とから断面Ｌ字状に形成されている。押さえ部３４は、ひさし部２４とは反対側で鏡板２０の後端部を係止している。縦壁部３２は、蓋体４の凸部１４の幅方向中央部で、外側壁部２８との間で形成される溝部３０の一側を閉鎖している。そして、この係止部材２６は、蓋体４の凸部１４近傍に凹設した凹所３６に超音波接着や溶着あるいは接着剤によってこれより分離可能に取り付けられている。

【００１２】

ここで、鏡板２０の取り付けに際しては、まず、鏡板２０の前端部を、当該鏡板２０を収納する凹所２２の前端側側壁に形成されたひさし部２４と凹所２２の内底面との間に差し込み、鏡板２０の後端部を蓋体４の凹所２２内に落とし込んで、鏡板２０全体を凹所２２内に収納する。そして、鏡板２０の後端部に係止部材２６を取り付けて完了する。

【００１３】

一方、前記化粧料容器では、係止部材２６を分離して鏡板２０を取り外すことができる。係止部材２６の分離に際しては、前記蓋体４の凸部１４に形成された溝部３０内に挿入可能な剛体を用いる。尚、ここでは、剛体としてコイン３８を用いることとする。まず、図３乃至５に示すように、蓋体４を開ききった状態にして、溝部３０内にコイン３８の一端部を挿入する。そして、溝部３０内から突出したコイン３８の他端部を、図３中矢印Ａで示す方向、即ち容器本体２側に押し倒すように力を加える。これによって、溝部３０内側に面した縦壁部３２の裏面は、テコの原理により、溝部３０に挿入されたコイン３８の一端部に押圧されて、係止部材２６は、図６に示すように、蓋体４から引き剥がされて取り外される。尚、図７に示すように、溝部３０に挿入された状態のコイン３８を矢印Ｂ方向、即ち鏡板２０側に押し倒しても前記場合と同様に係止部材２６の取り外しを行うことができる。また、挿入したコイン３８をひねっても同様にして取り外すことができる。また、前記剛体としては、溝部３０の内側に挿入可能なものであれば、前記コイン３８の他、例えばドライバーなどを用いても良い。

【００１４】

このようにして係止部材２６が取り外されれば、図８に示すように、鏡板２０の後端部が解放される。これにより、鏡板２０の後端部を凹所２２内から引き起こして、鏡板２０の

前端部をひさし部２４と凹所２２の内底面との間から引き出すことで、鏡板２０を凹所２２内から取り出して蓋体４から取り外すことができる。

【００１５】

以上のような構成の化粧料容器によれば、使用済み後、廃棄する際に、例えば前記コイン３８などを使用して係止部材２６を蓋体４から引き剥がし取り外すことによって、鏡板２０を蓋体４から取り外すことができ、ガラスからなる鏡板２０と、合成樹脂からなる容器本体２や蓋体４とを分別することができる。このことから、前記化粧料容器にあっては、ゴミの減量化及びリサイクル化に対し十分に対応することができる。

【００１６】

図９及び１０は、本発明の第２の実施形態に係る化粧料容器の要部断面を拡大して示したものである。この第２の実施形態に係る化粧料容器では、係止部材２６が軟質材から形成され、その押さえ部３４に突部４０が一体的に垂下形成されている。この突部４０は、図１０に示すように、蓋体４が閉じたときに、容器本体２の後端部上端面に当接して弾性圧縮される。そして、この弾性圧縮された突部４０は、蓋体４のフック部１６と容器本体２の係合突起１２との係合状態が解除されて蓋体４が開かれる際に復元変形して、蓋体４を弾発的に開動付勢する。

【００１７】

また、この第２の実施形態に係る係止部材２６は、前記第１の実施形態のように接着によって取り付けられているのではなく、その蓋体との接合面に形成された突起４２と、蓋体４側に設けられた嵌合凹部４４とのはめ込みによって取り付けられている。このように、係止部材２６がはめ込みによって取り付けられている場合でも、第１の実施形態の場合と同様、例えばコイン３８などを使い係止部材２６の縦壁部３２の裏面を押圧することによって、突起４２を嵌合凹部４４から抜き外して係止部材２６の取り外しを行うことができる。

【００１８】

尚、係止部材２６に設けられる前記突部４０については、図１１及び１２の第３の実施形態において示すように、縦壁部３２に一体的に設けて、蓋体４が閉じたときに、図１２に示すように、容器本体２の後端部側面に当接するようにしても、前記第２の実施形態の場合と同様に、蓋体４の開動付勢を行うことができる。

【００１９】

【発明の効果】

以上説明したように本発明に係る化粧料容器にあっては、例えばコインなどの剛体を使って溝部を押し広げて、蓋体後端部の蝶番部を構成する凸部の外側壁部および係止部材を引き離して、鏡板を係止している係止部材を蓋体から取り外すことによって、使用済み後、鏡板を蓋体から取り外して、鏡板と化粧料容器本体との分別廃棄を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明に係る化粧料容器の第１の実施形態の側断面図である。

【図２】本発明に係る化粧料容器の第１の実施形態において蓋体を開ききったときの様子を示した上面図である。

【図３】本発明に係る化粧料容器の第１の実施形態において蝶番部付近を拡大して示した部分断面図である。

【図４】図２の化粧料容器のＣ－Ｃ矢視断面図である。

【図５】本発明に係る化粧料容器の第１の実施形態において係止部材をコインを使って取り外すときの蝶番部付近の様子を拡大して示した部分斜視図である。

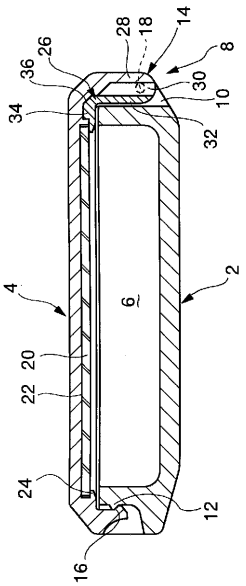
【図６】本発明に係る化粧料容器の第１の実施形態において係止部材を取り外すときの蝶番部付近の様子を拡大して示した部分断面図である。

【図７】本発明に係る化粧料容器の第１の実施形態において係止部材をコインを他の方向に倒して取り外すときの蝶番部付近の様子を拡大して示した部分断面図である。

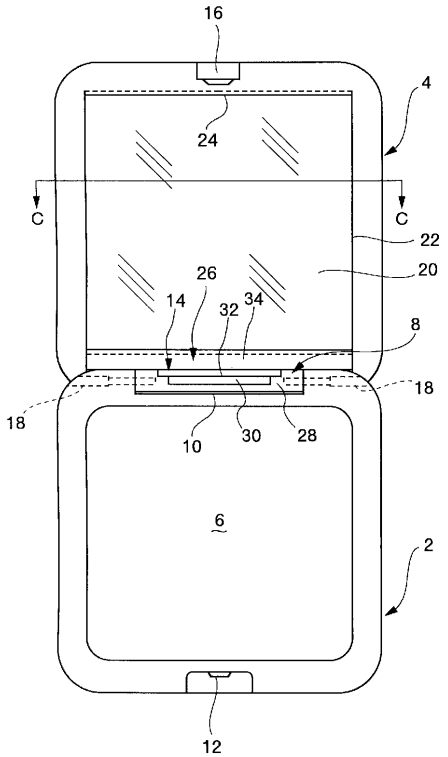
【図８】本発明に係る化粧料容器の第１の実施形態において係止部材を取り外して鏡板を取り外すところを示した部分断面図である。

【図９】本発明に係る化粧料容器の第２の実施形態において蝶番部付近の様子を拡大して示した部分断面図である。
【図１０】本発明に係る化粧料容器の第２の実施形態において蓋体を閉じたときの蝶番部付近の様子を拡大して示した部分断面図である。
【図１１】本発明に係る化粧料容器の第３の実施形態において蝶番部付近の様子を拡大して示した部分断面図である。
【図１２】本発明に係る化粧料容器の第３の実施形態において蓋体を閉じたときの蝶番部付近の様子を拡大して示した部分断面図である。
【符号の説明】
２　容器本体
４　蓋体
８　蝶番部
１４　突部
２０　鏡板
２２　凹所
２４　ひさし部
２６　係止部材
２８　外側壁部
３０　溝部
３２　縦壁部
３４　押さえ部
３８　コイン

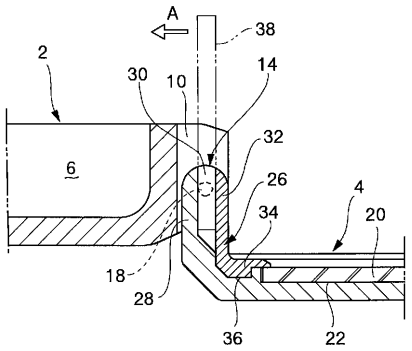
【図１】



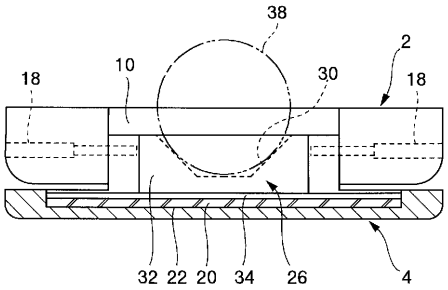
【図２】



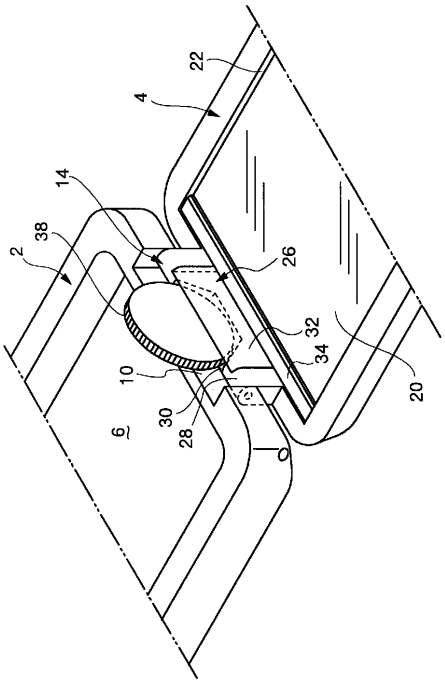
【図３】



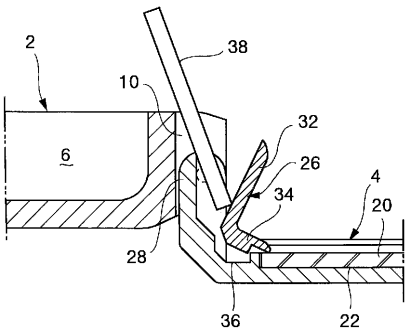
【図４】



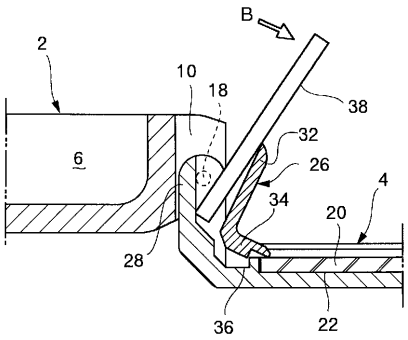
【図５】



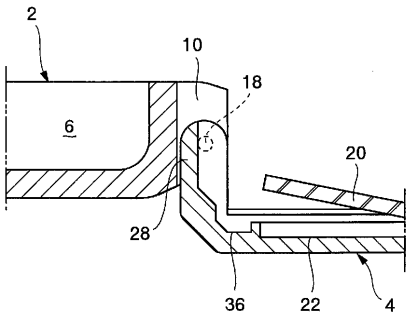
【図６】



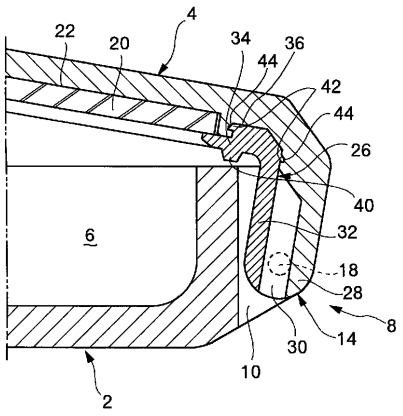
【図７】



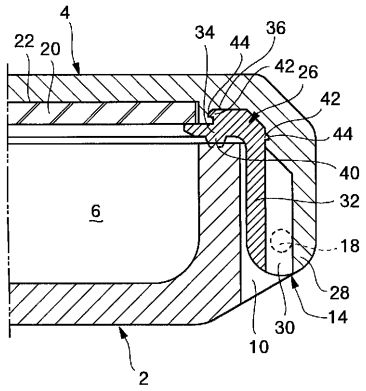
【図８】



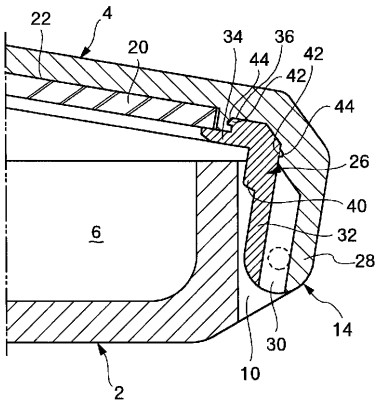
【図９】



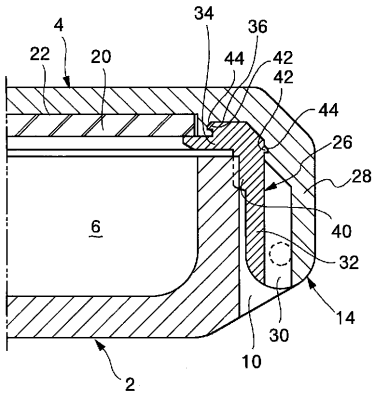
【図１０】


4
22
20
34
44
36
42
26
42
44
40
32
6
18
28
14
30
10
2

【図１１】


22
4
20
34
36
44
42
42
44
26
40
32
6
28
14
30
10
2

【図１２】


4
34
36
22
20
44
42
42
44
26
28
40
6
32
14
30
10
2

フロントページの続き

審査官　岩田　洋一

(56)参考文献　実開平０２－０７１３２６（ＪＰ，Ｕ）
実開平０７－０２４７４１（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６３－０７４４５４（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A45D 33/00